

セーフコミュニティ再認証申請書

2012 TOSHIMA CITY



セーフコミュニティ
国際認証都市・豊島区



2022年6月

豊島区セーフコミュニティ推進協議会

ごあいさつ



豊島区は平成24年11月に「セーフコミュニティ」の国際認証を日本では5番目、東京で初めて取得しました。以来、区内各機関と連携し、地域の方々を中心に安全・安心のまちづくりに熱心に取り組み、連携の輪を広げてきました。この結果、10年目の節目となる令和4年11月に、3度目となる「セーフコミュニティ」の国際認証を取得できました。

この10年間は決して平坦な道のりではありませんでした。平成26年5月に、豊島区は、民間有識者会議である日本創生会議から東京23区で唯一「消滅可能性都市」の指摘を受けました。これを機に消滅可能性都市から持続発展都市への転換を目標に掲げ、女性にやさしい、子育てしやすいまちづくりに大きくかじを切りました。

このまちづくりにおいても、基本としたのは安全安心です。安全安心の基盤の上に、誰もが主役で輝けるまち「国際アート・カルチャー都市」というビジョンを掲げました。

豊島区は、日本有数の繁華街「池袋」を抱える高密都市であると同時に、単身世帯割合も非常に高く、安全・安心の推進だけでなく、コミュニティづくりも大きな課題の一つです。

このような課題を抱える豊島区にとって、「安全・安心」と「コミュニティづくり」の両方の解決を目指す「セーフコミュニティ」は、地域の特性に合致した、価値ある活動であると考えています。

「成果をあげる人の共通点は、行わなければいけない事を、しっかり行っているという事だけである。」これはマネジメントの父として知られるピーター・ドラッカーの言葉です。「安全安心」を絵に描いた餅にしないためには、安全・安心の取り組みを着実に進めることが欠かせません。

豊島区が、初めて「セーフコミュニティ」の国際認証を受けてから10年。豊島区は見違えるように明るく希望に満ちたまちへと変貌しました。まちには人々の笑顔が溢れています。これは、地域のみなさん、警察・消防をはじめとした関係機関がまさに「オールとしま」で、一丸となって取り組みを継続してきた成果です。

私は、「セーフコミュニティ」の3度目の認証を機に、これまで以上に安全・安心のまちづくりを地域の皆さんとともに推進していきます。

豊島区セーフコミュニティ推進協議会会長

豊島区長 高野之夫



目次

第1章 豊島区の概要	1
1 都市機能	2
(1) 沿革と位置、面積	
(2) 土地利用	
(3) 教育と文化	
(4) 医療	
(5) 産業	
(6) 都市交流	
2 人口、世帯	5
(1) 人口の推移	
(2) 人口密度	
(3) 人口動態	
(4) 外国人人口の推移	
(5) 人口分布	
(6) 世帯数と世帯構成	
第2章 外的要因による死亡・けがの状況	9
1 死亡の状況	10
(1) 病気を含めた死亡原因	
(2) 全死亡者に占める外的要因による死亡の割合	
(3) 不慮の事故、自殺者による死亡者の推移	
(4) 年齢別の不慮の事故、自殺の状況	
2 けが等の状況	14
(1) 救急搬送によるけがの状況	
(2) 子どものけが	
(3) 高齢者のけが	
(4) 障害者のけが	
(5) 交通事故によるけが	
(6) 加害によるけが	
(7) 労働によるけが／スポーツ事故によるけが	
(8) 自傷行為によるけが	
(9) 地震災害による被害想定	
3 重点テーマの設定根拠	25

第3章 7つの指標に基づく取り組み 27

指標1：協働と連携による安全向上を目指した分野横断的組織 28

- (1) セーフコミュニティ活動の推進体制
- (2) セーフコミュニティ推進協議会
- (3) セーフコミュニティ推進本部（庁内組織）
- (4) 対策委員会
- (5) セーフコミュニティ専門委員
- (6) 外傷サーベイランス委員会
- (7) 地域区民ひろば

指標2：全ての性別、年齢、環境をカバーする長期・継続的な予防活動 34

- (1) セーフティプロモーションの全体像
- (2) 主な予防対策活動

指標3：ハイリスクのグループや環境に焦点を当てた予防活動

1 各対策委員会の対象となるグループ・環境 40

- (1) 子どものけが・事故予防対策委員会の対象となるグループと対策
- (2) 高齢者の安全対策委員会の対象となるグループと対策
- (3) 障害者の安全対策委員会の対象となるグループと対策
- (4) 自転車利用の安全対策委員会の対象となるグループと対策
- (5) 繁華街の安全対策委員会の対象となる環境と対策
- (6) 地震災害の防止対策委員会の対象となる環境と対策
- (7) 児童虐待の防止対策委員会の対象となるグループと対策
- (8) ドメスティック・バイオレンスの防止対策委員会の対象となるグループと対策
- (9) 自殺・うつ病の予防対策委員会の対象となるグループと対策

2 その他のハイリスクグループ・環境 43

- (1) 低所得者・路上生活者とその対策
- (2) 外国籍住民とその対策

指標4：根拠に基づく継続的な予防活動 45

- (1) 子どものけが・事故予防対策委員会
- (2) 高齢者の安全対策委員会
- (3) 障害者の安全対策委員会
- (4) 自転車利用の安全対策委員会
- (5) 繁華街の安全対策委員会
- (6) 地震災害の防止対策委員会
- (7) 児童虐待の防止対策委員会
- (8) ドメスティック・バイオレンスの防止対策委員会
- (9) 自殺・うつ病の予防対策委員会



指標5：傷害が発生する頻度・原因を継続的に記録する仕組み 95

- (1) 外傷サーベイランスの全体像
- (2) 外傷サーベイランスを構成するデータ
- (3) 継続的なデータ収集の計画

指標6：予防活動の効果・影響を測定・評価する仕組み 97

- 1 セーフコミュニティプログラムの進行管理 97
- 2 重点テーマに対応した効果の検証方法 98

- (1) 子どものけが・事故予防
- (2) 高齢者の安全
- (3) 障害者の安全
- (4) 自転車利用の安全
- (5) 繁華街の安全
- (6) 地震災害の防止
- (7) 児童虐待の防止
- (8) ドメスティック・バイオレンス（DV）の防止
- (9) 自殺・うつ病の予防

指標7：国内・国際的なネットワークへの継続的な参加 129

- (1) 国内ネットワークへの参加
- (2) 国際ネットワークへの参加

第4章 セーフコミュニティ活動の長期展望 135

- (1) 豊島区自治の推進に関する基本条例への位置づけ
- (2) 豊島区基本計画への位置づけ
- (3) 安全・安心に関する条例
- (4) 安全・安心に関する宣言
- (5) SDGsの推進
- (6) シンボルモニュメントの設置

参考資料（セーフティプロモーション一覧・安心安全に関する宣言） 139

第1章

豊島区の概要



1 都市機能

(1) 沿革と位置、面積

豊島区は、日本の首都東京の中心部を構成する23特別区の1つで、1932年10月、東京市郡合併により近郊82町村が東京市に編入され、新たに20区が設けられた際に誕生しました。

東京23区の西北部に位置し、面積13.01km²、23区中18番目の広さです。東西に6,720メートル、南北に3,660メートルと「鳥が羽を広げたかたち」をしており、東京湾の平均海面を基準とした高さは高地が36メートル、低地が8メートルで、おおむね台地状をなしています。

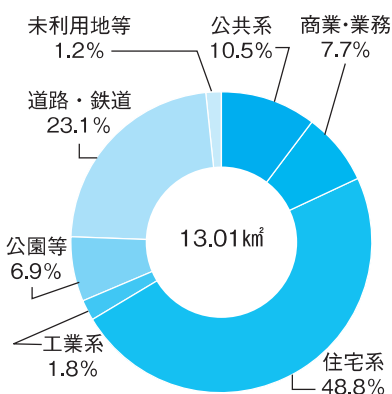


(2) 土地利用

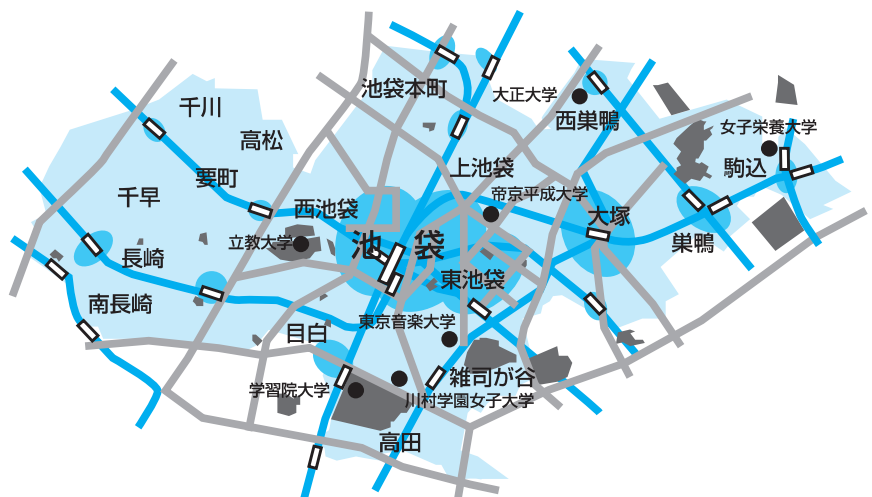
区の土地面積を用途別に分類すると、住宅系が48.8%、公共系が10.5%、商業業務系が7.7%、工業系が1.8%となっています。区内には、鉄道5社12路線で16の駅があり、東京で唯一の路面電車の都電荒川線が走っています。

区の中心に位置する池袋駅の周辺には、複数のデパートなどの商業施設や業務ビルが集積し、副都心を形成しています。池袋駅の日平均乗降車人員は約265万人で、都内では新宿駅に次ぐ第2位となっています。また、大塚、巣鴨、駒込、目白などの鉄道駅周辺には、商業が栄え、巣鴨にはおばあちゃん原宿として全国的に知られる巣鴨地蔵通り商店街があります。

図 1-1 用途別土地建物分布状況



(2016年度土地利用現況調査)



(3) 教育と文化

区内には、立教大学、学習院大学、大正大学、東京音楽大学、女子栄養大学、帝京平成大学、川村学園女子大学をはじめとして、約130もの教育施設があります。また、劇場、映画館、博物館、演芸場、美術館などの文化施設も多く、個人や地域団体の芸術文化活動も活発に行われています。手塚治虫、赤塚不二夫など、日本のマンガ文化を築いたマンガ家が多く住んだ「トキワ荘」があったことなど、豊かな文化と芸術を育んできた歴史があります。

そして、日本を代表する花である桜の中でも一番有名な“ソメイヨシノ”の発祥の地でもあります。

表 1-1 教育機関（文部科学省調査 2021. 5. 1 現在）

幼稚園	小学校	中学校	高等学校	各種・専門学校	短期大学	大学	計
20	24	17	17	48	2	7	135

(4) 医療

区内には、病院が14か所、一般診療所が461か所あります。人口10万人あたりの施設数を全国平均と比べると、病院はほぼ同程度、一般診療所は約2倍で、医療機関は充実しています。

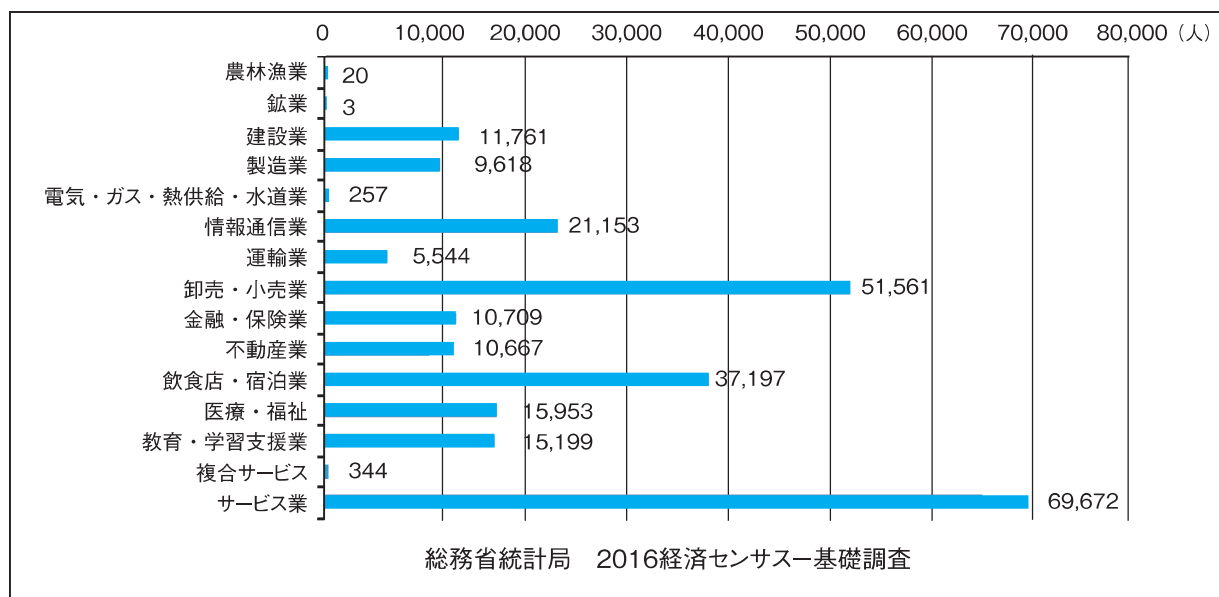
表 1-2 医療機関の施設数、病床数（厚生労働省：医療施設調査 2019.10.1 現在）

病 院		一般診療所			計		
施設数	病床数	施設数	有床	無床	病床数	施設数	病床数
14	1,310	461	17	444	111	475	1,421

(5) 産業

区内の従業者を業種別にみると「サービス業」が一番多く、次いで「卸売・小売」、「飲食店・宿泊業」となっており第三次産業が9割を占めています。「建設業」「製造業」などの第二次産業は1割となっています。

図 1-2 産業別従業者



(6) 都市交流

本区は、多くの自治体との交流を活発に行っています。

- セーフコミュニティ友好都市 文山区（台湾 台北市）
- 姉妹友好都市 秩父市（日本 埼玉県）、遊佐町（日本 山形県）、箕輪町（日本 長野県）
- 友好都市 東大門区（大韓民国 ソウル特別市）
- 相互交流宣言都市 名張市（日本 三重県）、宮城県（日本）、那珂川町（日本 栃木県）、湯河原町（日本 神奈川県）、伊江村（日本 沖縄県）、内子町（日本 愛媛県）、長野市（日本 長野県）、中富良野町（日本 北海道）

このほか、岩手県一関市、宮城県石巻市、宮城県大崎市、山形県村山市、福島県いわき市、福島県南相馬市、福島県伊達市、福島県猪苗代町、茨城県常陸大宮市、栃木県宇都宮市、栃木県那須烏山市、群馬県神流町、群馬県みなかみ町、埼玉県三芳町、新潟県魚沼市、新潟県津南町、富山県富山市、長野県小海町、岐阜県関市、青森県十和田市、新潟県湯沢町、長野県立科町、静岡県浜松市、東京都八丈町、大分県杵築市、秋田県能代市、北海道夕張市と友好関係にあり、各種交流事業を行なっています。

また、西武線沿線・東武東上線沿線の活性化を図ることを目的に沿線都市・鉄道事業者で協定を締結しています。

- 西武線沿線地域の活性化に関する相互協定（西武線沿線サミット協定）都市等
秩父市、飯能市、所沢市、横瀬町、西武鉄道株式会社
- 東武東上線沿線地域の活性化に関する相互協定（東武東上線沿線サミット協定）都市等
川越市、東松山市、寄居町、坂戸市、越生町、東武鉄道株式会社

2 人口、世帯

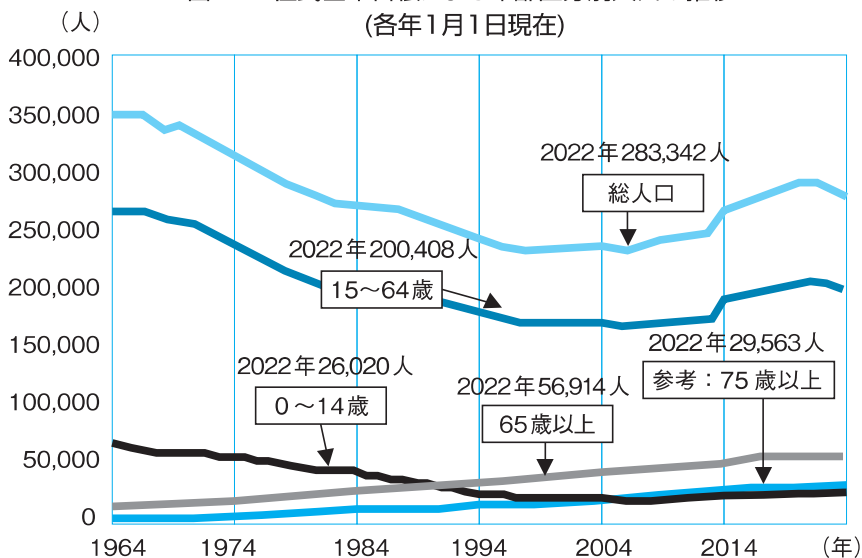
(1) 人口の推移

豊島区の人口は、2006年以降増加の一途をたどっていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響から、流入人口や外国人が大幅に減少したことなどにより、2022年1月1日現在では283,342人となっています。

1964年以降における年齢3区分別の人口の推移をみると、長期的には年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）が減少傾向となっている一方、老年人口（65歳以上）は増加傾向となっており、2022年1月1日現在では56,914人、全人口に占める割合は20.1%となっています。

1989年を転換点として老年人口が年少人口を上回るようになり、少子高齢化が進行しています。また、後期高齢者人口（75歳以上）も増加傾向となっており、今後、医療や介護を必要とする区民の増加が見込まれています。

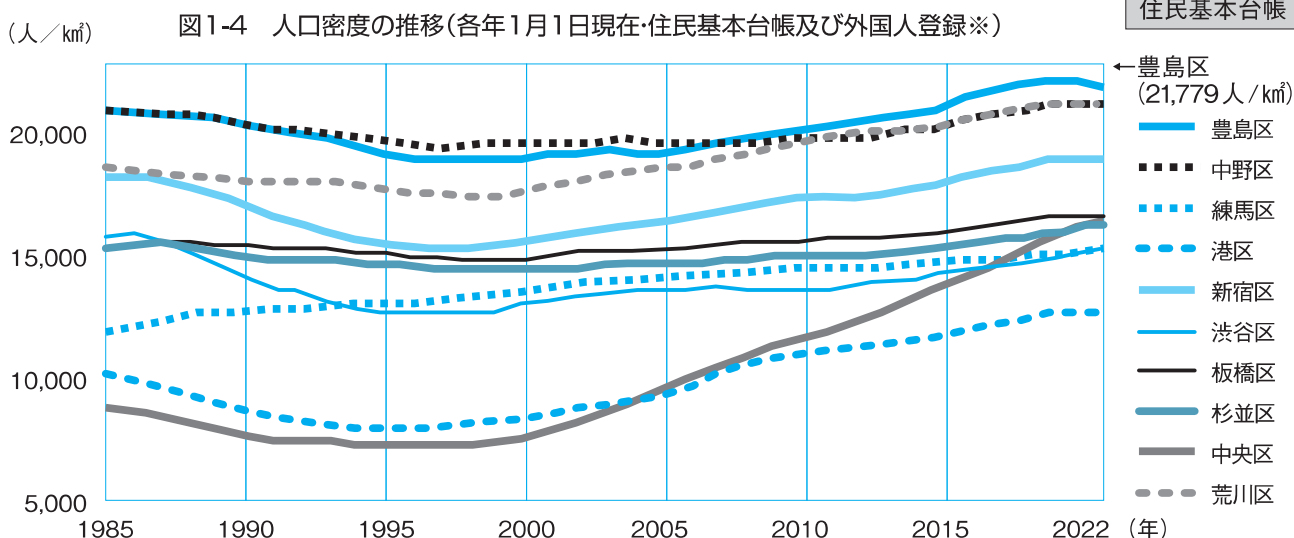
図 1-3 住民基本台帳による年齢区分別人口の推移
(各年1月1日現在)



※住民基本台帳法の改正(H24.7)により、平成25年以降住民基本台帳人口に外国人住民数が含まれている。

(2) 人口密度

都心に近い区の人口密度は、2005年以降増加傾向にあり、豊島区は2009年に中野区を抜き、人口密度が日本で最も高い都市となりました。



※人口密度＝人口総数／面積

※人口総数について、平成24年度以前は、住民基本台帳による日本人住民数に外国人登録者数を加えている。住民基本台帳法の改正(H24.7)以降は、住民基本台帳による日本人住民数及び外国人住民数を用いている。

(3) 人口動態

自然動態は、1992年以降、死亡数が出生数を上回る自然減の状況が続いています。

また、社会動態は、1997年以降、ほぼ転入数が転出数を上回る社会増の状況が続いていましたが、2017年以降は均衡し、2020年はコロナ禍の影響により、転出数が上回っています。社会動態を見ると、毎年、約1割の人口が入れ替わっていることがわかります。

豊島区の近年の人口増加は、自然減を大きく上回る社会増によるものです。

図1-5 自然動態(出生・死亡)の推移 住民基本台帳

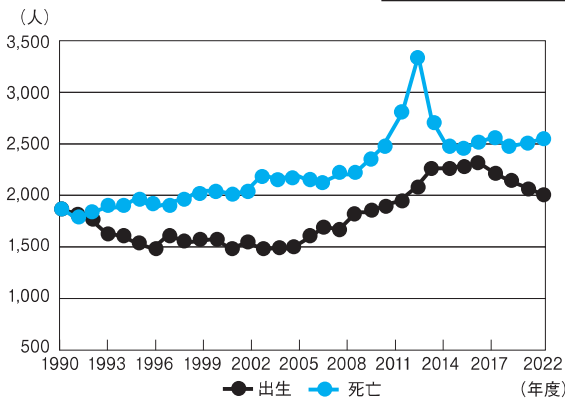
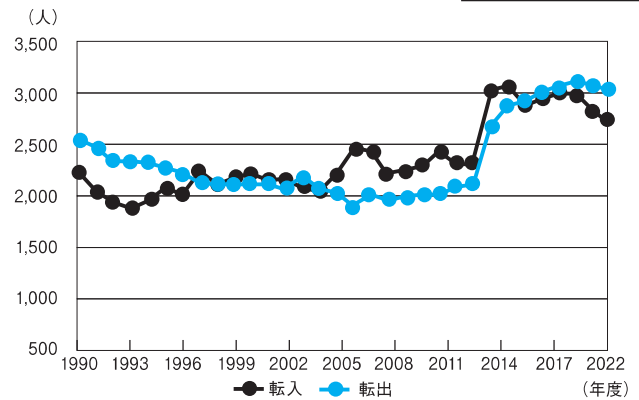


図1-6 社会動態(転入・転出)の推移 住民基本台帳

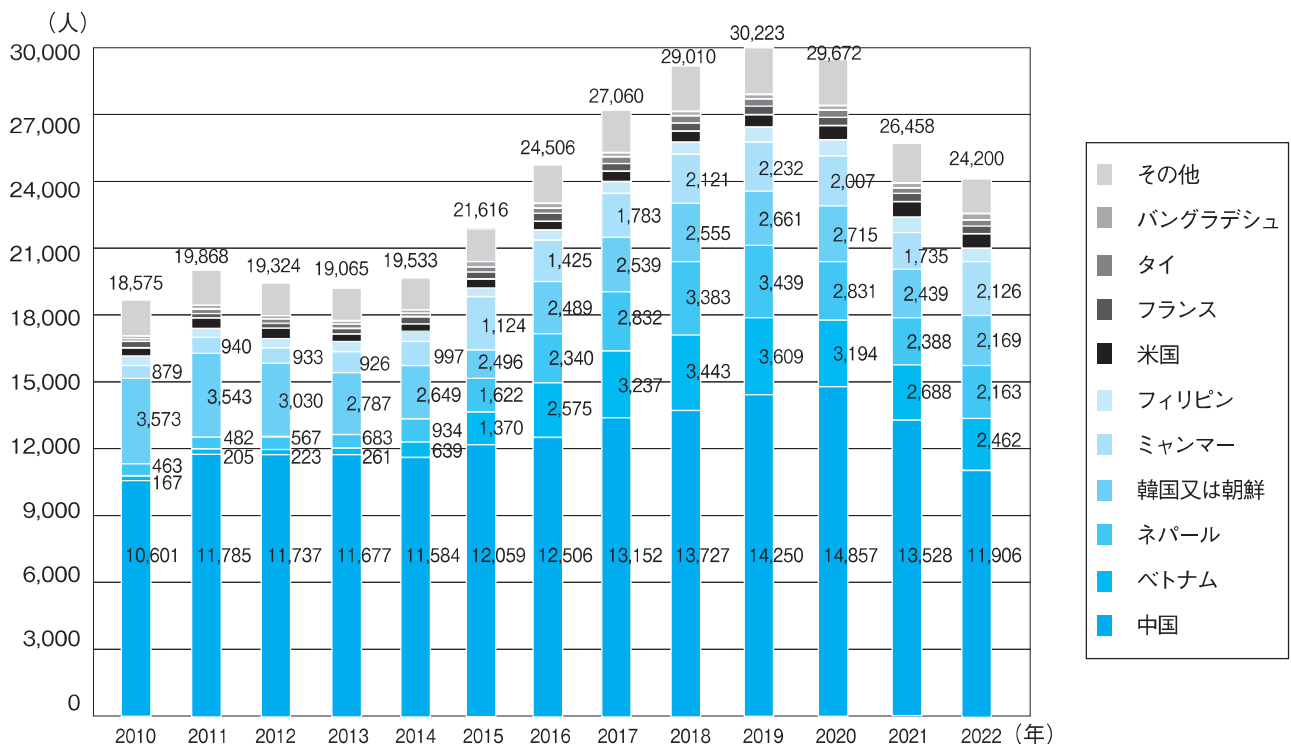


(4) 外国人人口の推移

2022年1月1日現在の外国人人口は24,200人、総人口に占める比率は8.5%となっています。外国人住民登録者数は、一時的な減少の時期があったものの、長期的には増加傾向が続いてきましたが、留学の在留審査の厳格化やコロナ禍における外国人留学生の大幅な減少などにより、2019年の30,223人をピークに減少に転じています。

図1-7 外国人登録者数の推移(各年1月1日)

外国人登録・住民基本台帳



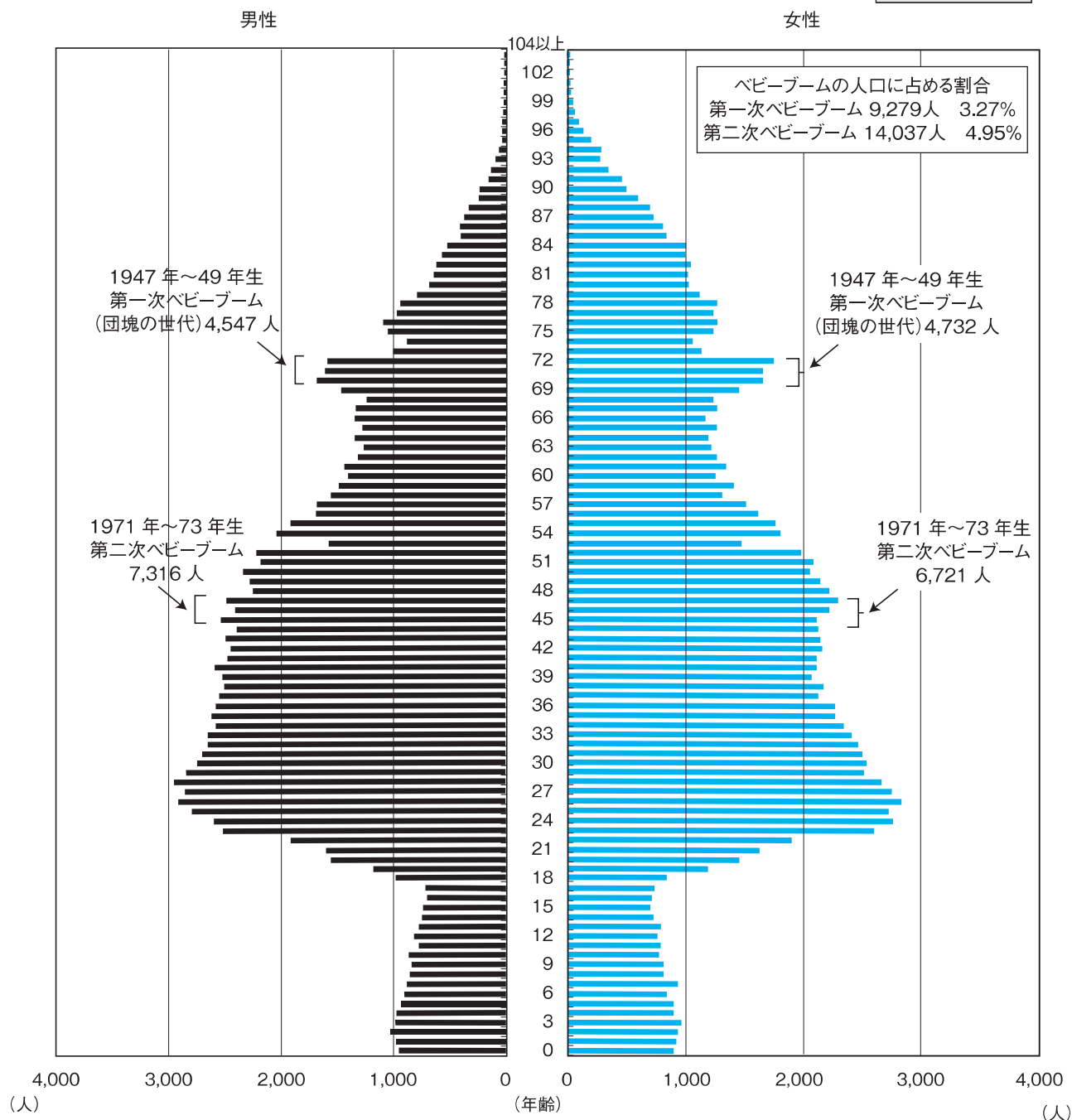
※2012年以前は外国人登録者を、住民基本台帳法の改正以降は、住民基本台帳による外国人住民数を用いている。

(4) 人口分布

豊島区の人口分布は、男女とも20代後半の人口が最も多く、20代から40代までがボリュームゾーンとなっています。日本の多くの自治体は、少子高齢化の進行により、高齢者が多い逆三角形の形状となりますが、豊島区は、外国人を含めた若い年代層の転入により人口分布はひし形の形状となっています。

図1-8 人口分布状況(2022年1月1日現在)

住民基本台帳



(6) 世帯数と世帯構成

1995年以降、豊島区の世帯数は増加傾向となっていますが、その大きな要因は単独世帯の増加によるものです。また、ファミリー世帯は減少を続けていましたが、2010年に増加に転じて以降、増え続けています。なお、23区の中で比較すると単独世帯の割合は、新宿区、渋谷区に次いで高く、ファミリー世帯の割合は、新宿区、渋谷区、中野区に次いで低くなっています。

図1-9 世帯数の推移

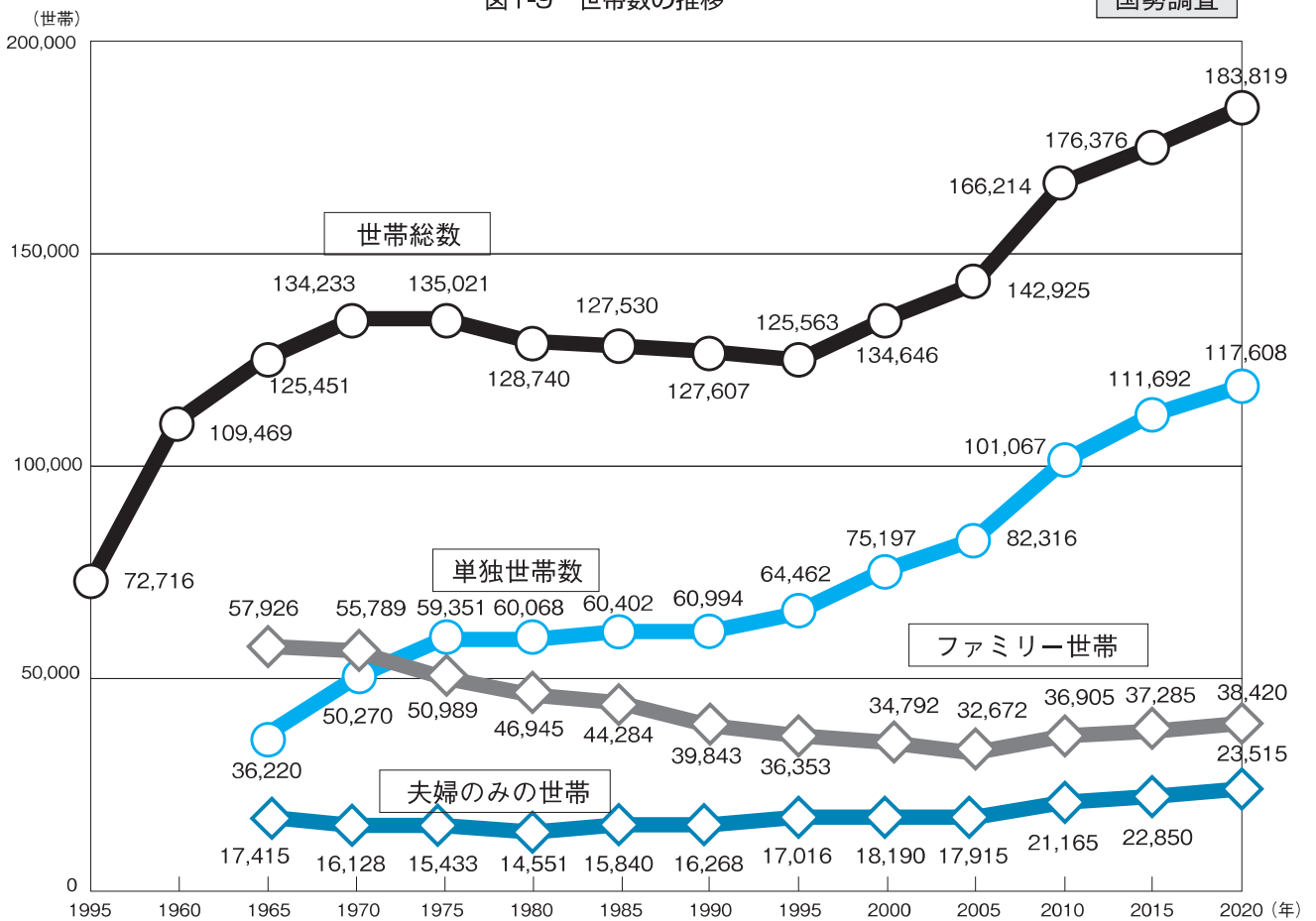


図1-10 ファミリー世帯と単独世帯の割合(2020年)

